

令和４年度指定管理者制度事業評価実施結果一覧

施設名		評価結果				事業評価総合コメント（指摘事項等）	今後における業務改善の方向性
		基礎的 業務	利用者 サービス	収支 状況	総合 評価		
1	さわらびの湯	A	S	A	A	<div>○ 施設がかなり老朽化している中で、利用者アンケート調査の結果には「清潔である」「清掃が行き届いていて綺麗である」という声が多く見られ、おもてなしの心を持って管理していることの結果が表れている。</div> <div>○ 収益状況に関しては、コロナ禍の影響により、エネルギー価格、物価の高騰、あるいは物品販売が計画どおりにならなかったことで赤字となったが、総合的には、良好に施設管理を行ったと評価できる。</div>	<div>○ エネルギー価格、物価の高騰により、今後の管理コストについては不透明であり、更に上昇することや高止まりすることもある。その対策として、利用者数の増加や消費単価を上げていく試みを実践すること。</div> <div>○ リピーター数の増のため、民間事業者ならではの様々な視点から利用者満足度の向上等に取り組んでいくこと。</div> <div>○ 名栗地域そのものを観光資源と捉え、登山で訪れる方に対しての新たなサービスの提供や周辺事業者との更なる連携等による収益改善策を検討すること。</div>
2	農林産物加工直売所	A	A	A	A	<div>○ 令和３年４月のグランドオープンから２年が経ち、グランピング事業を一過性で終わらせないために、指定管理者として試行錯誤しながらも無事に３年目を終えることができた。</div> <div>○ 継続的な雇用創出や市内事業者との積極的な取引拡大など、市内への経済波及効果に寄与した。</div>	<div>○ 引き続き安心安全な管理運営に努めること。</div> <div>○ アウトドアブームによる競争が激化する中、常に注目を集める施設となるよう新しいことにチャレンジしていくこと。</div> <div>○ 地域住民に愛される施設となるよう、地域を巻き込んだ事業展開を積極的に図ること。</div>
3	ふれあい農園施設	A	A	A	A	<div>○ 前例踏襲ではなく利用者目線に立った運営体制が整いつつある。</div> <div>○ 施設の老朽化などの課題も多いが、地域との関係も良好なため、指定管理者として地域の牽引役となる取組が期待できる。</div>	<div>○ 引き続き安心安全な管理運営に努めること。</div> <div>○ 施設の老朽化対策は継続して実施し、新規顧客獲得のための事業についても検討すること。</div> <div>○ 地域を巻き込んだ取組を実践すること。</div>
4	林業センター	A	A	A	A	<div>○ コロナ禍でも利用者数が増加した中で施設管理が適切に行われ、利用者への対応も丁寧であった。</div> <div>○ 施設の老朽化に伴い外壁や空調設備等の大規模な修繕を行う中で、周知や調整等を行いながら作業を終えることができた。</div>	<div>○ 令和３年度から木育事業を新設し、親子参加型の西川材を使ったイベントなどを令和４年度も開催した。林業センター内に設けたイベントスペースは、西川材の床や椅子を使い、木に触れる機会を増やす工夫がされていたほか、乳幼児用に授乳室やトイレ用具を設置し、安心して参加できるよう配慮されていた。参加者はリピーターも多く好評であったことから、次年度以降も適宜改善を行い、施設を有効に活用しながら、工夫を凝らした運営を行っていくこと。</div>
5	総合福祉センター （施設管理）	A	A	A	A	<div>○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みつつ、利用者の安心につながる適切な施設運営が行われた。</div> <div>○ 引き続き利用者と良好な関係を築き、地域福祉の拠点としての機能を十分に発揮することを期待する。</div>	<div>○ 施設の竣工後３５年以上が経過し、経年劣化による建物・設備の不備・不調が懸念されることから、これまで以上に日常点検に配慮し、安全に安心して利用できる施設であり続けられるよう努めること。</div> <div>○ 社会情勢の変化により物価が高騰するなど、経費の増大が見込まれることから、引き続き経費の節減に向けた創意工夫に努めること。</div>

施設名		評価結果				事業評価総合コメント（指摘事項等）	今後における業務改善の方向性
		基礎的 業務	利用者 サービス	収支 状況	総合 評価		
6	総合福祉センター （身体障害者福祉センター）	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none">○ 令和４年度には虐待防止委員会が設けられた。委員会を２回開催するとともに、職員は毎月チェックシートに記入し自らに虐待行為がなかったか改めて振り返ることにより、意識付けされている。○ 施設管理では、新型コロナウイルスの感染予防対策を施設側及び利用者側が徹底した結果、クラスターの発生はなく、大幅な休館もすることなく１年間を終えることができた。○ 新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じ、利用者の安心、安全を第一に身体障害者福祉センターの事業を行った。○ 看護師による相談支援や車いすの貸し出し、遠隔手話タブレットの設置等、障害者に配慮したきめ細やかな対応を継続して実施できた。	<ul style="list-style-type: none">○ 令和４年度は地域活動支援センター内に虐待防止委員会を設置したことにより、利用者の人権尊重、安全が図られたが、毎月のチェックシートによる虐待への意識付けが重要であることから、委員会でチェックシートの評価も実施していくこと。○ 地域活動支援センターの利用者の高齢化が進み、登録があるものの事業に参加できない利用者も出てきている。今後は、利用者の現状に適した事業内容、地域活動支援センターの役割や対象者等について検討すること。○ 新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行したが、今後も利用者の安心、安全に配慮しつつ、障害者の社会参加を支援する場として広く利用できるように、事業の実施、施設の管理を行っていくこと。
7	総合福祉センター （老人福祉センター）	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none">○ 感染対策を徹底した上で事業の再開をしており、高齢者福祉の増進に努めた。○ 新規事業の「終活講座」などを行い、高齢者の不安の解消につなげるなど、利用者の視点を考えた事業運営を評価する。	<ul style="list-style-type: none">○ 事業を概ね計画どおりに実施し、利用制限も解除するなど、コロナ禍以前の状況に近づいてきている。引き続き高齢者の健康を考え、事業の見直しや施設の点検、修繕などを進めていくこと。○ 利用者からの意見を参考に業務の改善につなげていただき、利用者との信頼関係を強化し、飯能市の高齢者福祉の更なる増進に努めること。
8	総合福祉センター （児童センター）	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none">○ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら自主事業を実施し、利用者への丁寧な声掛けなどの細やかな配慮により、児童や保護者が安心して過ごせる居場所となっている。○ 利用者の安心安全を第一に考え誠実に対応していることが良好な運営につながった。	<ul style="list-style-type: none">○ アンケートの実施等により利用者ニーズの把握に努め、引き続き安心安全な児童の居場所づくりに取り組むこと。○ 基本的な感染症対策を継続しながら事業を充実させ、安心安全に利用できる居場所として児童センターの機能周知に取り組むこと。
9	高齢者福祉施設敬愛園	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none">○ コロナ禍の影響が続く中、感染対策を徹底し、施設内での集団感染は発生しなかった。○ 緊急措置など様々な事情で入所されている高齢者の立場を考え、職員が適切にコミュニケーションをとることにより、良質な施設運営に努めた。	<ul style="list-style-type: none">○ 施設の設置目的は高齢者福祉の増進を図るためであり、養護老人ホームの特性上、幅広い知識・経験を積んだ職員の対応が求められる。今後も定年再雇用制度等を利用して人員配置基準を満たす勤務体制を維持すること。○ 新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の分類が変更となったが、入所者は重症化リスクの高い高齢者であることから、引き続き、基本的な感染対策に努めること。○ 施設の経年劣化に対応するため、日常的なメンテナンスや軽微な修繕をもとに施設の長寿命化に引き続き取り組むこと。

施設名		評価結果				事業評価総合コメント（指摘事項等）	今後における業務改善の方向性
		基礎的 業務	利用者 サービス	収支 状況	総合 評価		
10	美杉台児童館	A	A	A	A	○ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら自主事業を実施し、利用者への丁寧な声掛けなどの細やかな配慮により、児童や保護者が安心して過ごせる居場所となっている。 ○ 児童クラブ室との連絡を常に行い、相互理解のもとに児童の安全に配慮し管理運営がされた。	○ アンケートの実施等により利用者ニーズの把握に努め、引き続き安心安全な児童の居場所づくりに取り組むこと。 ○ 地域の団体と連携しながら事業を充実させ、安心安全に利用できる居場所として児童館の機能周知に取り組むこと。
11	東吾野医療介護センター	S	A	S	S	○ 利用料金収入が指定管理者制度導入以降、最高額となり、収入増加に繋がる様々な取組を継続してきた成果が表れた。 ○ 利用者からの評判も良く、地域に根差した施設として良好な運営がされた。	○ 今年度、通所リハの利用者が増加したように、外来、健診についても工夫次第で利用者増加に向けて改善の余地があるため、今後も積極的なPRに努めるとともに、利用者対応の見直し・研究など、利用者増加に繋がる取組を継続していくこと。 ○ 入院及び老健入所については、依然として高い稼働率を維持しており、安定した収入を確保できる分野であるため、引き続きこの状況を維持できるよう努めていくこと。 ○ 専門職の確保が難しい状況ではあるが、職員の配置状況や業務配分の見直しなど、業務の効率化を追求し、山間地域の医療機関として求められる医療ニーズに対応できるよう取り組んでいくこと。
12	都市公園（阿須運動公園、美杉台公園及び岩沢運動公園）	A	A	A	A	○ 年度当初より計画的に業務を遂行できており、植栽管理等の公園美化に対する意識については高く評価できる。 ○ 突発的な案件への早急な対応や、危機管理体制も向上していると評価する。	○ 民間事業者を強みに、公園利用者の増加につながるアイデアをもっているため、自主事業による自主財源の更なる確保に努めること。
13	都市公園運動施設	A	A	A	A	○ 施設管理については、保守点検や修繕等、誠実に対応している。 ○ 施設及び設備の老朽化が進む中、利用者の安心・安全を第一に考え、迅速な対応がされている。 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しながら、利用者のニーズに合わせた市民サービスの向上に努めた。	○ 施設の安全性を確保するため、引き続き保守点検や修繕等を実施し、老朽化に伴う短・長期的な修繕計画を検討すること。 ○ 利用者のニーズを的確に捉え、利用者の立場に立ったサービスの向上に努めること。 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類になったことにより、キッズルームの再開なども含めコロナ禍前の従来の利用方法に戻ることから、主催事業の充実や積極的な情報発信など利用者増加に向けた施策に取り組むこと。